

# 遠距離介護 お知恵拝借

## 寝屋川 20人参加しセミナー

遠くに住む親の介護をしている人たちが、悩みや知恵を出し合う「『お悩み軽減』遠



距離介護セミナー」が15日、寝屋川市立保健福祉センターであった。寝屋川市で暮らす母の元へ通う北海道の夫婦や、岩手に両親がいる島本町の男性など、約20人が参加した。

主催したのは市社会福祉協議会。担当の浜吉信彰さんは「離れて暮らす親子が多い今、遠距離介護に対応する仕組みづくりは避けられない。何が問題なのか、経験者の声を聞きたかった」と説明する。

札幌市から妻と参加した安

遠距離介護の悩みや工夫を発表しあうセミナー参加者ら

寝屋川市

味則明さん(65)の悩みは「寝屋川で暮らす義母が認知症で戸締まりや火の始末が心配」ということ。寝屋川市から豊中市の両親宅に通う3回通う女性は、「夜中に親が倒れたら、どうしたらいいのかわからない」。

講師として参加したNPO

法人パオッコ(離れて暮らす親のケアを考える会)の太田差恵子理事長は、「近所の人に『親に何かあったときはよろしくお願いします』と頼んでおき、お互いに電話番号を交換しておく心強いです」とアドバイスした。寝屋川市の高齢者福祉の担当者は「ポ

タンを押すと救急車が駆けつける緊急通報システムや、全地球測位システムを使って徘徊する人の居場所を確認できるサービスもあるので、ぜひ活用してほしい」と市の取り組みを紹介した。

交通費がかかることも話題になった。寝屋川市の女

性は「父の葬式代を取り崩してまで交通費を出してとは言えない」と悩みを語った。

(八田智代)